

博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
機関名	大阪大学	全体責任者（学長）	西尾 章治郎
類型	複合領域（多文化共生社会）	プログラム責任者	星野 俊也
整理番号	L02	プログラムコーディネーター	志水 宏吉
プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、5年間の首尾一貫したコンセプトとカリキュラムのもとで、国際的および国内的な文脈における「多文化共生社会の実現」を導くグローバル人材（＝未来共生イノベーター）を輩出することにある。未来共生イノベーターとは、自らのコアとなる専門分野で博士レベルの高度で専門的な知識を有するとともに、他者に対する深い理解をともなう敬意（respect）にもとづき、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを創案・実現できる知識・技能・態度・行動力を備えた実践家・研究者のことである。このプログラムは、本学全体の研究・教育を統括する目的から設置された大阪大学未来戦略機構の第五部門という位置づけを有しており、「地域に生き、世界に伸びる」とモットーとする本学の今後の研究・教育を先導する役割を期待されている。

2. プログラムの進捗状況

本プログラムは順調な進展を遂げている。学内外の約50名をプログラム担当者とし、その中心に運営統括会議を組織した。そして、そのもとに「財務・人事」「選抜・審査」「評価・広報」「教務」「学生支援」「国際連携」「産官学連携」の7つのワーキンググループを継続的に稼働させ、仕事を進めた。平成28年は四期生となる13名の履修生を迎え入れ、11名の特任教員（教授2、准教授1、常勤講師1、助教7）が、それぞれの担当分野で学生の教育にあたった。この間、アカデミックワーク、プラクティカルワーク（コミュニティ・ラーニング、公共サービス・ラーニング、海外インターンシップ、フィールド・ラーニング）が計画どおり進められ、国内外に開設したサテライト・オフィス（国内：岩手県野田村、国外：インドネシア・ガジャマダ大学、ザンビア：コッパーベルト大学）を実地における教育・研究拠点として有効に利用した。プログラムの活動の発信の場として、未来共生セミナーの実施と報告書の作成、「未来共生学」の構築に向けた議論の場としてRESPECTトークを開催した。活字媒体として、ニューズレター、また機関誌『未来共生学ジャーナル』を創刊し、第四号を発刊した。また、4回目となる「博士課程リーディングプログラムフォーラム2016」2回目となる

「『多文化共生社会』6大学交流会」に参加し、各大学の学生たちとの交流の場を持った。